

# 社教連会報

No. 14

## 会長新任に当って

会 長 天 城 勲



昨年から思いがけないことが身近に起きていたが、その一つが五七年から東京都の社会教育委員会議の議長を仰せつかり、此度、その延長線で、全国社会教育委員連絡協議会の会長をお引受けすることとなった。前任の駒田錦一先生は皆様ご存知の通り、社会教育に関しては、学問の上でも実践の面でも、見識と経験の豊かな第一級の方であるので、先生の後任者としては何事も不案内で、座り心地としては何とも心もとない。それに社教連も懸案の法人化がいよいよ近く具体化される運びとなってきた時だけに、あらためて重責を痛感しているのです、この上は全国三万八千人の社会教育委員の方々の御協力を心からお願い申上げ、職責を尽くすのみと観念している。

もう一つの異変は、これも昨年一月から放送利用による大学教育に関する研究及び開発を任務とするわが国では初めての大学共同利用研究機関という放送教育開発センターの責任を負うこととなった。周知の通り、昭和六〇年四月からは放送大学の教育が開始され

る歩みとなっているので、目下はその準備、とくに放送による大学教育の内容、方法等に関する研究と開発の実験番組を製作し、放送し、学習指導を行って、多角的な研究開発を試行している。同時に北海道から九州にわたって六つの国立大学において放送利用による大学公開講座を、われわれのセンターと共同研究として実施している。いずれも大学レベルの教育を中心とする一つのタイプの生涯教育の開発研究であり、同時に実践的試行である。これらを通じて、これまでの経験から学びえたことは、年令、職業、性別を越えて、わが国民の教育へのニーズの熱意であって、あらためて強く打たれてる。

このような私自身の身の辺りの異変からあらためて社会教育、就中近年さかんに論議されている生涯教育の意義について考え直している。

生涯教育については論議はきわめて盛んである。それと同時に多くの人がそれなりに生涯教育の意義を理解し、またそれなりに生涯教育を実践して実態を実感している。

生涯教育と銘うっているか否かは別として、公共団体の主催する講座や学習プログラムは近年益々盛んで、その数も多く、種類もきわめて多様性に富んでいる。その中で従来公共団体の社会教育部局で行ってきた事業は、全体

のなかではむしろ、少数派で、一部一隅にすぎないし、さらに民間の行いうわゆるカルチャーセンターは花盛りである。この実態を前にして、つくづく国民の学習意欲の強さとそのニーズの多様性が痛感される。しかしこのような国民の学習機会の拡大と多様化は、他面では需要者、供給者の双方にとって、学習機会や学習内容についてのいわば学習情報の混乱をきたして、適切な需給マッチを欠いているうらみがある。ある意味では情報化時代の情報過多、情報氾濫の弊が現われていて本当に学習を希望し、必要としている人々に適切な学習機会や学習内容の情報が伝わっていない。

一方では、情報伝達の技術的手段の革新がきわめて顕著で、テレビの文字多重放送も人工衛星利用も既に日程に上っており、光ファイバーによる有線テレビやこれとコンピュータを結合したいわゆるCアンドC構想も遠い夢物語ではない。しかしこのようなハードシステム網を利用してどのような情報を流すか、流れるかとなると、これは別でむしろこの面での開発は遙かに遅れている。

限られた紙面で舌足らずになるが、賢明な皆様とともにこのような情報化の動向、生涯教育の展開のなかで、われわれ社会教育委員としてはどのような役割を果たしていくべきなのであるか、一人一人の見識とともに相携えてその見識を豊かに持ちより結果していくことがさらに必要となってきたのではなからうか。



# 第25回全国社会教育委員研究大会をめざして

◆趣旨 今日、生涯学習、生涯教育の時代を迎え、住民一人ひとりが自己啓発に努め、個性や能力を磨き、手を取りあって温い心のかよいあう地域社会づくりに寄与することが求められています。

特に、青少年非行が深刻な社会問題となり、家庭、学校、地域一体となつての対応が迫られております。

この時にあたり、全国の社会教育委員並びに社会教育関係者が一同に会し、各地での活動状況や研究成果を交流し合うと共に、今後社会教育委員の果たすべき役割について研究討議する。

◆研究主題 生涯教育の観点に立って、青少年健全育成の問題に焦点を当てながら、社会教育の推進と社会教育委員の果たすべき役割を考える。

◆期日 昭和58年10月4日(火)・5日(水)・6日(木)の3日間

◆会場 岡山市民会館他9会場

◆主催 全国社会教育委員連絡協議会・中国・四国社会教育委員連絡協議会・岡山県社会教育委員連絡協議会・岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・(財)全日本社会教育連合会

◆後援 文部省・岡山県・岡山市  
◆日程 (「第一日」)10月4日13時～14時30分開会行事、表彰、行政説明、

郷土芸能、記念講演 講師ノートルダム清心女子大学長 渡辺和子 「たいせつなもの」  
〔第二日〕10月5日9時～16時30分  
各分科会別討議  
〔第三日〕10月6日9時～12時 記念講演 講師お茶の水女子大学教授 外山滋比古 「家庭教育のこころ」 閉会行事 午後は施設見学

◆分科会と主題  
第一分科会・家庭教育。潤いと活力のある家庭の創造の方策を考える  
第二分科会・青少年教育。他人を思いやる豊かな心を育てる青少年教育の方策を考える  
第三分科会・成人教育。生涯学習時代に対応する成人教育の推進方策

第四分科会・高齢者教育。高齢化社会の時代を迎えて高齢者教育の推進を考える  
第五分科会・障害者教育。障害者に対する社会教育振興の方策を考える  
第六分科会・同和教育。人権を尊重し明るい差別のない社会の実現をめざす社会同和教育の方策を考える  
第七分科会・地域社会。心豊かで生きがいと活力に満ちた地域社会づくりの方策について考える  
第八分科会・社会体育。生涯スポーツ活動の推進方策について考える  
第九分科会・社会教育行政。21世紀における社会教育の展望と社会教育行政の振興方策について考える

分科会・主題  
第1分科会 家庭教育  
。豊かな心を育てる家庭教育のあり方を考える  
第2分科会 青少年教育  
。青少年の健全育成をめざした地域協力体制のあり方を考える  
第3分科会 成人教育  
。時代に対応する成人教育推進の方策を考える  
第4分科会 高齢者教育  
。高齢化社会の到来に対する高齢者教育の充実方策を考える  
第5分科会 地域社会  
。豊かな活力のある地域社会づくりをめざす方策を考える  
第6分科会 社会教育行政  
。生涯教育推進のための社会教育基盤整備を考える  
シンポジウム、講演、全体会議等

## 地区研究大会に参加しよう

### 北海道地区研究大会―滝川市

期日 9月21日(水)～22日(木)

会場 滝川市文化センター

研究主題「生涯教育の観点にたつて、社会教育の今日的課題を検討し社会教育委員のあり方を考える」

◆東北地区研究大会―秋田県  
期日 9月8日(木)～9日(金)  
会場 秋田県生涯教育センター  
研究主題「生涯教育の観点に立って、社会教育の今日的課題に対処する社会教育委員の今後の活動のあり方を考える」  
分科会・討議題  
第1分科会 家庭教育  
。こころ豊かでたくましい子供を育てるための家庭教育の方策

昭和58年度第25回全国大会は前述の通り岡山県において着々と準備が進められているが、各地区別の研究大会もそれぞれ準備が進行中です。すでに去る1月28日には、各研究大会開催県の担当者会議が東京において開催された地区の開催要項案が発表されましたので、その概略をお知らせします。



第2分科会 青少年教育

。青少年の健全育成をはかるための社会教育の方策

第3分科会 成人教育

。多様な学習要求に対応する成人教育の振興方策

第4分科会 高齢者教育

。高齢化社会に対応する高齢者教育推進の方策

第5分科会 社会教育行政

。社会教育行政の水準引き上げの方策

記念講演、シンポジウム、懇親会等

関東甲信越静地区研究大会—神奈川県

期日 9月13日(火)~14日(水)

会場 神奈川県立音楽堂

研究主題「生涯学習の観点にたち、社会教育の今日的課題と社会教育委員の活動のあり方を考える」

分科会名

第1分科会 生涯教育

第2分科会 青少年教育

第3分科会 家庭教育

第4分科会 高齢者教育

第5分科会 社会教育委員

全体討議、講演、代表者会議

東海・北陸地区研究大会—岐阜県

期日 9月7日(水)~8日(木)

会場 岐阜市民会館

研究主題「豊かな地域づくりをめざす社会教育と、社会教育委員の活

動のあり方を求めて」

分科会・主題

第1分科会 家庭における教育の望

ましいあり方

第2分科会 青少年健全育成の望ま

しいあり方

第3分科会 時代に対応する望まし

い成人教育のあり方

第4分科会 豊かな地域づくりの方

策

第5分科会 人間尊重の地域づくり

の推進

全体討議 記念講演等。

近畿地区研究大会—大阪府

期日 7月5日(火)~6日(水)

会場 大阪府青少年会館

研究主題「生涯学習の観点に立った地域における社会教育の今日的課題と社会教育委員の活動のあり方を考える」

分科会名

第1分科会 青少年教育

第2分科会 同和教育

第3分科会 地域活動

第4分科会 条件整備

第5分科会 成人教育

全体討議、記念講演等

九州地区研究大会—大分県

期日 9月8日(木)~9日(金)

会場 別府市 杉の井ホテル

研究主題「生涯学習の今日的課題な

らびに社会教育委員の役割と活動のあり方を考える」

分科会テーマ

第1分科会 地域ぐるみによる青少

年健全育成のあり方

第2分科会 特色ある住みよい地域

社会の実現

第3分科会 生涯学習の理念にもと

づいた教育条件の整備

第4分科会 人間尊重にねざした社

会教育の推進

第5分科会 社会教育関係団体の育

成と相互の連携

第6分科会 社会教育委員連絡協

会の活動の活発化

全体会、講演、アトラクション等

以上全国六地区において開催の地区研究大会の開催要項の要約を掲載しま

したが、開催県では現在それぞれ準備が進行中であり、いずれ委員の皆様へ参加の呼びかけがあるでしょう。奮って地区大会に参加しましょう。

指定都市連絡協議会—神戸市

58年度指定都市社会教育委員連絡協議会が次の日程で開催されます。

期日 58年5月27日(金)・28日(土)

会場 神戸市 舞子ビラ

協議 各指定都市より協議題を提出して研究協議を行う

見学 神戸市立博物館他

なお、26日(木)には指定都市社会教育

委員主管課長会議が開催されます。

募金についてお願い

「社団法人設立認可近づく」にてご報告したとおり去る三月二十九日文部省の石井社会教育課長より法人設立認可について文部省の意向が伝えられましたが、そのとき要望事項として「基本財産の増加を図ること。」が強く要望されました。本会の寄付金募集はま

社会教育

誌歴三十余年。毎号、時代に即応した貴重な研究、事例等を掲載。普通号四〇〇円 千五〇円 増大号八八〇円 千六五〇円 全日本社会教育連合会発行



# 社団法人設立認可近づく

事務局長 長谷川 和夫

本会は昭和五十六年五月十八日、東京文化会館で開催した五十六年度理事評議員会で『社団法人の設立を申請すること。』を正式に決定しました。

そして直ちに設立者会議（設立発起人会）を設けて申請の準備を整えることとし、その出席者を会長一名、副会長二名、地区代表者八名、事務局長一名計十二名と決めました。

設立者会議の出席者が九月下旬に決定しましたので、五十六年十一月二十六日、二十七日の両日、東京青山会館において『社団法人設立者会議』を開催しました。当日全員が出席して慎重に次の事項を決定しました。

・法人設立趣意書。寄附財産について。社団法人の定款。役員を選任。事業計画と予算

さらに申請手続上の一切の権限を委任する設立代表者に駒田会長を選任しました。

事務局は設立者会議の議決にもとづいて申請に必要な関係書類を作成して五十七年一月十二日に主務官庁である文部省に提出しました。

爾後、数次にわたって文部省と、設立認可について交渉を重ねてきました。文部省の新たな法人に対する期待は極めて大

きく、設立についての要望も相当厳重かつ広汎にわたりました。

（その一）

従来の団体は社会教育委員のみを中心にして、その資質の向上を図ること、社会教育委員の団体相互の連絡提携を図ることに力を注いでいるように見えました。それだけが目的ならば任意団体でも充分である。法人ともなれば

もっと視野を広くして社会教育そのものの発展をはかることを考えて欲しい。たとえば従来の団体が設立以来実施してきた社会教育の研究大会、それは二十数回にのぼる全国大会も、数十回にのぼる各地区大会も『社会教育委員研究大会』という名称でもわかるように、社会教育委員のための研究大会である

が、これなども参加者の範囲を広くして、社会教育委員にかぎらず社会教育に関する各種委員、婦人団体、青少年団体、PTAの活動家、社会教育行政の担当者、その他社会教育の推進に熱意のある団体の役員等にも呼びかけるべきではないか。したがって研究大会の研究主題、分科会構成などは根本的に研究することが必要ではないか。

（その二）

社会教育委員には、それぞれの県市町

村の婦人団体、青少年団体、PTA、文化団体、体育団体等の役員、公民館関係者、学校長等が多く、これらの人が中心になって地域のいろいろな問題と取組み、社会教育の推進に大きな力となっています。新団体は中央において各団体、各方面の協力を求めて社会教育推進の中心的な役割を果たすことを期待したい。

結局文部省と本会との間で意見の一致をみた新団体の名称、目的、事業は次のとおりです。

**名称** 社団法人全国社会教育委員連合  
**目的** 全国の社会教育委員を中心として社会教育関係者の協力体制を確立し、あわせて社会教育に関する諸事業を行い、もって社会教育の振興に寄与すること。

**事業** (1)社会教育に関する大会、研究会集  
会等の開催

- (2)社会教育関係者の研修
- (3)社会教育に関する調査研究
- (4)機関誌および社会教育に関する図書の刊行
- (5)社会教育の振興に顕著な功績のあった者の表彰
- (6)講演会等の開催

で、本会より提出した設立趣意書や定款は相当変更しましたが、修正点は新法人を社会教育推進の中核的な団体にしようとする文部省の意図より出ていることが理解できました。このように文部省との間に折衝が続きましたが、去る三月二十九日、石井社会教育課長より次のように文部省の意向が伝達されました。『法人設立については省内関係課長会議において、概ね了承されたが、会議での意見を踏まえ、社会教育課において更に改善指導を加え、改めて昭和五十八年十月までに再度関係課長会議に諮ることとなった。』という趣意でありました。なお次の二点が要望事項として附加されました。

- (1)財政基盤を確立するために、基本財産の増加を図ること。
- (2)賛助会員に社会教育の推進に熱心な諸団体の参加を求めること。

ようやく設立認可に一步近づきましたので四月二十七日に『設立者会議』を国立教育会館で開催して、文部省との交渉の経過を報告し、本会が提出した設立趣意書、定款、事業計画、予算の変更した点を説明して、再審議の結果満場一致で可決しました。

さらに五月十八日の理事評議員会において、文部省との交渉経過および『設立者会議』における再審議の結果を報告し、理事・評議員会（総会）は、改めて社団法人設立申請を行うことを議決しました。したがって十月四日から岡山県において開催する第二十五回全国社会教育委員研究大会は社団法人設立記念大会となる予定です。



### ● 関口隆克前会長が就任

関口隆克先生は昭和四十六年から五十二年まで八年間にわたって本会の会長をつとめられました。先生は文部省の調査局長や国立教育研究所長を歴任されるなど、長く官途に就きながら極めて野人的で視野が広く、「社教情報」の刊行、社会教育委員の海外視察などについていろいろご指導をいただきました。昨年の理事評議員会で満場一致で顧問に推挙されました。

### ● 事務局だより

#### ▼ 58年度理事・評議員会開催

本年度第一回目の理事・評議員会が次の日程で開催されます。56年度理事評議員会において決定した社団法人設立の問題が最終段階を迎えて、特に重要な会議となります。

日時 58年5月18日(水)  
 理事会 10時～12時  
 評議員会 13時30分～5時  
 会場 国立教育会館(東京・霞が関)  
 議事 (1)57年度事業報告・決算報告  
 (2)58年度事業計画案・予算案  
 (3)社団法人設立に伴う諸問題  
 (4)第25回、第26回(59年度)全国大会開催について  
 (5)役員改選について

#### ▼ 法人設立者会議 開催

日時 58年4月27日(水)13時半～17時  
 会場 国立教育会館会議室  
 出席者 水谷伍一、今井豊蔵、向坂孝、平沢俊雄、大熊立治、三角了、碓井正久、駒田錦一、小林力三、鎌水速太、長谷川和夫 以上の各地区代表、正副会長、事務局長が出席しました。

議事 (1)現在までの経過について  
 (2)法人設立に伴う諸問題等

この法人設立者会議は昭和56年度の理事・評議員会の議決にもとづいて設置されたものであります。第一回目の会議が開催されてから約一年半、その間文部当局と折衝を重ね、最終段階を迎えたので、今回の会議が開催されました。この会議は、定款、事業、予算等についての意見交換が行なわれ、その結果を本年度の理事・評議員会に提案されることになりました。

#### ▼ 都・県社教連の新任会長が就任

昨年度の理事・評議員会以降に都・県の社会教育委員連絡協議会長に新任の方がそれぞれ就任されました。

- 山形県 長 俊英(代理)
- 栃木県 丸山雄三
- 東京都 天城 勲
- 神奈川県 森田利志夫
- 愛知県 向坂 孝
- 高知県 芝田不二男
- 大分県 野尻 哲

#### ▼ 「社教情報」第10号の発行とお願い

ユニークな機関誌として好評を得ています「社教情報」第10号(57年度版)A5版56頁・頒価二〇〇円)の発行が大変に遅れて三月末になりました。全国各地の社会教育委員の方々の発言の頁の八思考と提言(四〇〇字詰五枚)に20名の方の投稿が掲載されました。社教情報の内容をより充実させるためには、なんといっても社会教育委員の方々のご意見が大切です。また、社教情報が全国の委員相互の情報交換の役割を果たしてゆく上からも、各位の積極的な投稿を多くにお願いいたします。

社教情報第11号の原稿を次の要領で広く募集いたします。いずれも内容は自由で四〇〇字詰原稿用紙に、随筆(10枚以内)、思考と提言(五枚以内)、和歌、俳句、川柳、詩等。この他にも社会教育委員を対象としました研修、研究会資料、会報類等もご送付下さるよう併せてお願い申し上げます。

#### 社教連会報 第14号

発行 昭和58年5月25日

#### 全国社会教育委員連絡協議会

100 東京都千代田区霞が関  
 312-13 国立教育会館内

全日本社会教育連合会  
 電話 03-580-0608

#### 社会教育委員に贈る

### 図書案内

#### 新編 社会教育委員必携

B6判 800円 予250円

社教委員必読の書。社会教育の現状、社教委員の職務と役割、そのあり方を明示。

#### 社会教育に関する答申集

B6判・750円 予200円

社会教育の今日的課題について中教審はじめ各諮問機関の答申を集大成。答申集最新版。

#### 社会教育法解説

B6判 450円 予200円

「社会教育法」を逐条解説。行政上の条文の位置づけを明示。現場で役立つハンドブック。

#### 新しい社会教育活動のうごき

全2巻 各500円 予200円

全国各地で活発に展開されている国庫補助事業それら社会教育活動の新局面を集大成。上・下巻。

(財)全日本社会教育連合会 東京都千代田区霞が関3-2-3国立教育会館内 ☎ 03-580-0608



主催 全国社会教育委員連絡協議会

## 第9回ヨーロッパ社会教育視察団

### 参加者募集

本会は昭和50年度より毎年社会教育委員、社会教育関係者による視察団を編成してヨーロッパの社会教育事情の視察を実施してまいりました。

58年度も第9回ヨーロッパ社会教育事情の視察を実施いたしますので、関係各位のご参加をおすすめいたします。

1. 目的 ヨーロッパ各地の社会教育施設を見学して、その活動状況を視察する。社会体育、文化遺産の保護についても実態を視察する。さらに各国の著名なる建造物、史跡を巡り、風光明媚な自然を鑑賞する。
2. 期間 昭和58年10月29日(土)～11月12日(土)(15日間)
3. 旅程 東京→ロンドン(2泊)→アムステルダム(2泊)→ウィーン(2泊)→フランクフルト(2泊)→ジュネーブ(2泊)→パリ(2泊)→東京
4. 主要視察先
  - ①ロンドン＝バッキンガム宮殿、国会議事堂、タワーブリッジ、トラファルガー広場、アビー・コミュニティ・センター、ナショナル・レクリエーションセンター・クリスタル・パレス
  - ②アムステルダム＝王宮、アンネの家、風車、レジデンシャル・カレッジ
  - ③ウィーン＝シェーンブルグ宮殿、ホーフブルグ王宮、国立オペラ劇場、オーストリア国民大学連盟
  - ④フランクフルト＝ゲーテの家、有職婦人協会
  - ⑤ジュネーブ＝宗教改革記念碑、パレ・デ・ナシオン、ルソー島、モン・ルポ公園
  - ⑥パリ＝ルーブル美術館、ノートルダム寺院、凱旋門、モンマルトルの丘、アマティエ青年文化の家
5. 経費 698,800円(朝・夕2食付、ベテラン添乗員が全行程御案内致します。)社会教育委員の方には、本会から20,000円の助成金がありますので、個人負担は678,800円となります。
6. 募集人員 15名(定員になり次第締め切ります)
 

〆切 9月30日(金)
7. 応募方法 はがきで全国社会教育委員連絡協議会へお申込み願います。なお詳細なことを知りたい方はご連絡下さい。詳細資料をお送り致します。
8. 旅行業務 旅行に関する一切の業務は近畿日本ツーリスト(株)虎の門海外旅行営業所が担当します。
9. 連絡申込先 〒100 東京都千代田区霞が関3-2-3 国立教育会館内



全国社会教育委員連絡協議会

TEL (03) 580-0608